

【慢性腎不全に対する透析導入の目安】

症状の種類	具体的な症状
A 体液貯留	全身のむくみ、高度の低たんぱく血症（血液中のたんぱく質の濃度が低い）、肺水腫（肺に水がたまる。呼吸困難や咳や痰）
B 体液異常	管理不能な電解質（排出されるべき電解質（ミネラル）が血液中にたまる、血液中のカルシウムが減る）、酸塩基〔pH（ピーエイチ/ペーハー）〕の平衡異常（血液が酸性になる）
C 消化器症状	吐き気、嘔吐、食欲不振、下痢など
D 循環器症状	重度の高血圧、心不全、
E 神経症状	中枢・末梢神経障害、精神障害（ボーっとして集中できない、頭痛、イライラ、ムズムズ、しびれ、麻痺、痙攣、幻覚、意識を失うなど）
F 血液異常	高度の貧血症（動悸、息切れ、疲労、倦怠感など）、出血傾向（鼻血、歯茎からの出血、下血など）
G 視力障害	尿毒症や糖尿病による網膜症（眼底出血による視力低下、視野が狭くなる、白目の出血など）

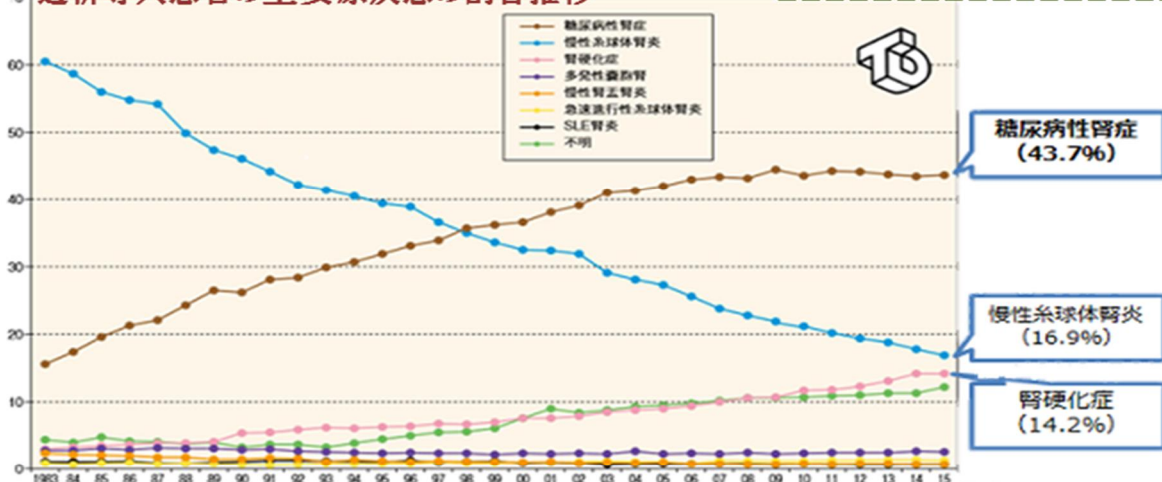
血清クレアチニン (mg/dL)	クレアチニン・クリアランス (mL/分)	点数
8 以上	10 未満	30
5 ~ 8 未満	10 ~ 20 未満	20
3 ~ 5 未満	20 ~ 30 未満	10

日常生活の問題の程度	点数
尿毒症のため起床できない	30
日常生活が著しく制限される	20
通勤・通学・家庭内労働が困難	10

←Aの ※A~Gのうち、3項目以上あてはまれば、
30点、2項目は20点、1項目は10点

A+B+C: 60点を透析導入とする

透析導入患者の主要原疾患の割合推移



日本透析医学会 統計調査委員会「わが国の慢性透析療法の現況」(2015年12月31日現在)より

糖尿病性腎症・・・血液中のブドウ糖濃度(血糖値)が高くなった“高血糖状態”が慢性的に続き、全身の血管にダメージを与える。腎臓は糸球体という細い血管の集合体で、糸球体では血液中の老廃物や余分な水分が濾過され尿として体外に排泄される。一方で、生体に必要なタンパク質は、糸球体でほとんど濾過されない。高血糖状態が続くと、糸球体の血管壁が傷害され通常は濾過されないタンパク質が尿中に漏れ出し、逆に濾過されるべき老廃物や余分な水分が十分に濾過されなくなる。→→**腎機能低下**

慢性糸球体腎炎・・・腎臓の糸球体が炎症を起こし、血液をうまく濾過できなくなる。通常濾過されない血液中のタンパク質や赤血球が尿中に漏れ出る状態が長期間続く。尿中に漏れ出るタンパク質が大量になり、血液中のタンパク質が少なくなると、脚や顔などに“むくみ”が現れたり血液中の悪玉コレステロールが増えたり(脂質異常症)、血液が固まりやすくなったり(凝固能亢進)する。→→**ネフローゼ症候群**

(※その他・・・IgA腎症、膜性腎症、膜性増殖性糸球体腎炎、巣状分節性糸球体硬化症)

腎硬化症・・・高血圧により腎臓の細い血管や糸球体が硬くなり、血液をうまく濾過できなくなる。(特に、高齢の患者さんが多い疾患。尿管が萎縮したり、血液中の老廃物や余分な水分を尿として排泄できなくなるため、腎臓自体も萎縮してゆく。

